

# 平成28年度 学校自己評価システムシート（県立岩槻高等学校）

目指す学校像	確かな学力・規律ある生活態度・国際感覚を身につけた生徒を育成し、一人一人の進路希望を実現する、地域に愛される学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>一人一人を生かす学びの定着（学力の向上を目指して）</li> <li>進路指導の充実（夢の実現を目指して）</li> <li>生徒指導の充実と人権教育の推進（豊かな心の育成を目指して）</li> <li>国際理解教育の推進（国際社会で活躍する生徒の育成を目指して）</li> <li>保護者・地域との連携（信頼される学校を目指して）</li> </ol>
------	--

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	生徒は、朝学習に真面目に取り組んでいるが、十分な家庭学習時間を確保せず習慣化も乏しい。学力向上のため、主体的に学習する態度を身につけさせることが重要であり、また家庭学習の充実にも期待できる。	目標を持ち、主体的に学習する生徒を育成する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①スタディサポートや学習リサーチの結果を分析し、生徒の個別指導に活かす。</li> <li>②課題考査を継続し、朝学習を充実させる。</li> <li>③公開授業を2回以上実施する。年間を通して教員相互による授業公開を実施する。</li> <li>④指導内容、到達目標の共通理解を深め、授業改善に取り組む。アンケート等により保護者・生徒から意見を聞く</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①成績不振生徒が前年比減少及び優良生徒が前年比増加したか。</li> <li>②表現力、読む力の育成等、朝学習内容の焦点化、充実に取り組めたか。</li> <li>③公開授業や教員相互の授業公開を適切に企画し、予定どおり実施できたか。</li> <li>④授業改善のため、研究が推進されたか。アンケートの活用が図られたか。</li> </ol>			
2	3年間を見通した指導により、進路意識は徐々に向上しているが、目標を高く持たせ、より難易度の高い大学等に挑戦することが望まれる。また、安易な進路選択や妥協する生徒がないよう、高い目標を維持する指導が必要である。	生徒が、より良い進路選択ができるよう、段階に応じて、キャリア教育の視点に立つ進路指導を充実させ、第一希望の実現を目指す。また、進学に必要な学力向上を図る。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①学年に応じ、職業・学部学科の研究を計画的に実施、進路情報提供に図書館を活用する。</li> <li>②進路講演会、模擬授業等実施し意識の向上を図り、併せて面談を通して目標を明確にし、難関大のチャレンジを促す。</li> <li>③必要な学習準備内容を把握させ、スケジュール指導を実施、計画的取組を促す。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①引き続き1学年次から進路行事を適切な時期内容により、実施できたか。</li> <li>②進路意識の向上が図れたか、面談は時期を含め効果的に実施できたか。</li> <li>③学習の継続が図られたか。進学講習への参加者、模擬受験受験者、センター試験受験者は増えたか。</li> </ol>			
3	生徒指導部が中心となり、全学年統一した指導が図られ、遅刻・欠席者は少ないが、個別に指導の必要なケースもある。また、多様な経験を持つ生徒に関係分掌・学年等が連携して対応できる体制を強化することが必要である。	整容指導、挨拶の励行、時間を守る指導等をより一層充実させ、岩高生としての品格を向上させる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①全教職員が共通認識のもと整容指導（制服の正しい着こなしと身だしなみ）を行う。</li> <li>②登校指導、下校指導を継続的に行う。スタート・ストップ技法による安全教室を実施する。</li> <li>③教育相談や指導の必要な生徒について情報共有の場を多く設ける。</li> <li>④人権教育講演会と職員研修会を実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①学年間で指導について共通意識で臨んでいるか。</li> <li>②遅刻者数、欠席者数が前年と比べて減ったか。また安全の向上が図られたか。</li> <li>③学年会や企画委員会等で情報を共有し、教育相談委と連携して、支援の必要な生徒の指導ができたか。</li> <li>④計画通り実施できたか。</li> </ol>			
4	今年度も海外授業体験学習への参加者を確保でき、体験学習を実施できる。今後、国際理解教育についてより充実発展させるためには、国際文化科内に留まらず学年単位、さらには全校での取組に高め発信していく必要がある。	国際文化科・各学年間での連携を強化するとともに、普通科への国際理解教育啓蒙を図り、全校での取組に高める。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①国際文化科の学科行事であるイギリスサマキャンプ、異文化理解セミナー、歌舞伎講座などの運営支援をする。</li> <li>②海外授業体験、受け入れの成果を行事や授業に活かす。</li> <li>③学年行事として校内スピーチコンテストに取組む。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①国際文化科と国際交流部で国際理解教育について連携が高まったか。講演内容の更なる充実が図られたか。</li> <li>②国際理解教育の取組や成果の発信、拡大ができたか。</li> <li>③計画実施が図られたか。</li> </ol>			
5	行事を中心に多くの保護者に来校して頂き、PTA活動との連携を深める必要がある。また、地域の行事にも積極的に参加し本校への評価も高い。今後は、さらなる学校外への情報発信、地域との連携を通して、期待により一層応えていく必要がある。	HPや学校通信等を活用した情報発信や地域行事への参加等を通して生徒や本校教育への理解評価を高め、生徒の自校への誇りを醸成する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①HPを定期的に更新する。</li> <li>②近隣の中学校等を積極的に訪問し情報提供をする。</li> <li>③生徒が地域の行事、ボランティア小高交流事業等に参加する。</li> <li>④PTA活動をより活性化し連携を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①定期的な更新ができたか。</li> <li>②訪問内容について工夫改善が図られたか。</li> <li>③昨年に比べ、参加者数が増えたか。</li> <li>④保護者の参加は増えたか</li> </ol>			

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	平成	年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等		